

**福祉施設評価に関する先行研究 Review からの考察****ー国際生活機能分類（ICF）を踏まえたアウトカム評価の検討ー**

○ 東洋大学 重田 史絵 (007279)

高橋 秀人 (国立保健医療科学院・008634)

キーワード3つ：福祉施設評価・アウトカム評価・国際生活機能分類（ICF）

**1. 研究目的**

わが国では福祉施設の評価制度として「福祉サービス第三者評価制度」がある。これは、社会福祉事業者に、提供する福祉サービスの質の評価を行い、利用者本位の良質かつ適切な福祉サービスを提供することを求める、社会福祉法第78条に基づく制度である。法の主旨に加え、虐待に関する報道等の増加や改正社会福祉法における情報開示や地域社会への貢献の義務付け等の社会的背景を鑑みると、福祉施設には「サービスの質を高める」と「情報開示」がますます求められており、これらを目的とした評価制度である「福祉サービス第三者評価」は今日の福祉制度においては重要な制度のはずである。しかしながら、その受審率は全国的に低い<sup>1)</sup>。原因として、煩雑な事務的作業が多く施設への負担が大きいことや、評価者のばらつき、評価結果の信頼性等が理由としてあげられているが<sup>2)</sup>、これらの受審しない理由が積み重なり、福祉施設側の現行の評価制度に対する信頼が低いことが大きいと考える。しかし、そもそもこれらの福祉施設評価は本当にエビデンスに基づいた評価制度になっているかという点については調べた範囲では議論がない。本研究では、福祉施設評価に関する先行研究の文献 Review により福祉施設の評価体系について検討することを目的とする。

**2. 研究の視点および方法**

福祉施設の評価について、これまで「福祉施設を何で測定してきたのか」という視点を中核として、先行研究における「評価項目」に着目した文献 Review を行った。

検索は論文検索エンジン Cinii (2018年8月アクセス)において、「福祉 AND サービス評価」、「ケア AND サービス評価」、「医療 AND サービス評価」、「施設 AND 質の評価」をキーワードとして検索を行った。検索された論文110件を分類し、実際に評価項目を用いて研究が行われた論文を「測定論文」とした。そこで使用されている「評価項目」について Donabedian モデルの「Structure (構造)」「Process (過程)」「Outcome (結果)」の枠組みを用いて分類を行った<sup>3)</sup>。

**3. 倫理的配慮**

本研究は、ヒトを対象とする研究に関わる各種指針には該当せず、インフォームドコンセント、倫理審査の対象となる研究に該当しない。よって本研究の全過程、成果の公表において『日本社会福祉学会研究倫理指針』を順守して行う。

**4. 研究結果**

実際に評価項目を用いた研究である「測定論文」は、評価内容の違いにより「施設評価の

測定論文」9論文と「満足度調査の測定論文」13論文が分類の対象として得られた。

これらの論文の評価項目を分類したところ、「Structure（構造）」項目は「環境・物的」「職員」「施設組織」に関する項目、「Process（過程）」項目は「提供サービス」に関する項目に分類された。「Outcome（結果）」項目については、「施設評価の測定論文」では総合的な評価やサービスによる心身機能への効果を測定する項目が含まれていたものの、評価項目を設定している論文自体が少なかった。一方、「満足度調査の測定論文」では総合的な全体評価や支援サービスに対する利用者の気持ち、心身機能への効果の満足を評価する項目に加えて、既存の信頼性、妥当性が証明されている評価尺度を用いて、利用者への効果測定を行っている論文が見られた。

## 5. 考察

文献 Review の結果、福祉施設を評価する評価項目について信頼性、妥当性を検証し、福祉施設評価のエビデンスを証明した論文は先行研究において存在しないことが明らかになった。そしてこれは、評価項目の構造の分析から検討すると、福祉施設評価における「Outcome（結果）」が何か、共通認識に至っていないことに起因していると考えられた。

この「Outcome（結果）」を明らかにすることは、福祉施設が持つ目的や役割について明確にすることである。それは福祉の目的である何らかの困難を抱える個人がより良く生きる状態、すなわち well-being な状態にすることであるといえる。そして、利用者の well-being な状態を目指すために福祉施設は、社会生活力の向上や機能の最適水準化といった効果へとつながるサービスの提供を行う。これらのサービス提供による効果測定が福祉施設評価におけるアウトカム評価であり、これを評価する構成因子は、あらゆる人間の健康状態において生活や機能という視点を踏まえ、社会制度や社会資源までも含めて分類し、記述・表現された国際生活機能分類「ICF」<sup>4)</sup>に網羅されていると考えられる。

エビデンスのある福祉施設評価を行うためには、評価項目に ICF の考え方を取り込み、「心身機能」「身体構造」「社会参加」「環境因子」を網羅する項目をアウトカム評価として組み入れていくことが必要であると考えられる。

## 文献

- 1) 社会福祉法人全国社会福祉協議会(2018)「福祉サービス第三者評価事業」(<http://shakyo-hyouka.net/evaluation5/>,2019.5.12).
- 2) 内閣府.規制改革推進会議第8回医療・介護・保育ワーキング・グループ(2017)「資料2 東京都福祉サービス評価推進機構 提出資料」(<https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/suishin/meeting/wg/iryuu/20170131/agenda.html>.2019.5.12).
- 3) Avedis Donabedian(1980)Explorations in Quality Assessment and Monitoring. Volume 1 The Definition of Quality and Approaches to Its Assessment. (=2007.東尚弘訳『医療の質の定義と評価方法』認定 NPO 法人健康医療評価研究機構.)
- 4) 世界保健機構(WHO) (2002)『ICF 国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-』中央法規.